

	発行者の略号	東書	教出
	書名	新しい道徳	とびだそう未来へ
ア 教科・種目に共通な観点	①編集の趣旨と工夫	生徒たちが他者と協働しながら未来を切り拓いていく力を身につけられるように、教材を選定したり、学びを仕組んだりしている。	科学技術が進歩し社会がめまぐるしく変化しても、他者や社会とかかわり、支えあいながら、自分自身で考え、選択を重ねて生きてくため役立つような道徳の力がつくように構成されている。
	(7) 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 「教育基本法（第1条、第2条）及び学校教育法（第49条・第30条2項）に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ① 生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮 ② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮 ③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	①キャリア学習に関する教材が含まれている。また、1年では社会への参加、3年では職業選択など、学年に適した内容になっている。 ③「生命尊重」と「いじめ問題」を扱う教材では、ユニット化されていて多面的・多角的に考えられるよう工夫されている。	①3年では、裁判員制度を通じて社会参画するなど、より高度な課題が設定されている。 ①情報モラル教育として、SNSとの付き合い方や人間関係のあり方などについて考えられるようになっている。 ①3年ではLGBTについて取り上げており、正しい知識を身につけることができるようになっている。
	(4) 市町の方針との関連 ① 小田原市 ②箱根町 ③真鶴町 ④湯河原町	各市町の方針に沿っている。	各市町の方針に沿っている。 ①1年では巻末に二宮尊徳の言葉が掲載されている。
	(ウ) 内容と構成 ○ 中学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ① 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮 ② 他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮 ○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ③ 言語能力の確実な育成 ④ 伝統や文化に関する教育の充実 ⑤ 体験活動の充実 ⑥ 学校段階間の円滑な接続 ⑦ 情報活用能力の育成 ⑧ 生徒の学習上の困難さに応じた工夫 ⑨ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	①新聞の投書や記事から意見を読み取る教材や、スマートフォンのメールからのやり取りから状況を読み取り、考えていく教材がある。 ②各教材のページ下部に、関連する教科が示されている。 ⑥小学校で既習した教材が掲載されていたり、いろいろな分野で働く人が扱われているなど、キャリア教育を通して高校と連携が図られたりしている。 ⑨あらすじや登場人物の紹介がある。 ⑨導入としての投げかけや漫画が掲載されている。 ⑨1つの内容項目が3学年で系統的に配置され、学年が上がるにつれてより高度なものになっている。 ⑨各教材の冒頭に、その教材が内容項目の4つの視点のうちどれに当てはまるかを色とマークで示している。	①生徒が共感的に読める教材、切実感を持って考えられる教材を掲載している。自己肯定感を高めることができる教材を取り入れ、揺れ動く生徒の心に寄り添い、自分らしさに自信が持てるように生徒を勇気づけ、向上心を育てることができるようにしている。 ③巻末に学期末に記入する振り返りシートが付属している。 ③それぞれの教材に対応する内容項目の一覧表があり、授業で感じたことなどについて簡単な記録ができる。 ④様々な分野で活躍した人物の言葉が掲載されている。（全国） ⑥1年の前半は字を大きくしてある。3年では社会との関わりや自分の生き方について深められるようになっている。 ⑧教材の始まりは右ページからになるよう配慮されている。 ⑨各教材の冒頭に、学習指導要領で示されている4つの視点のうちどれに当てはまるかを色とマークで示している。
(イ) 分量・装丁・表記等 ① 各内容の分量とその配分は適切であるか。 ② 体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮されているか。 ③ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、生徒が理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	②AB判 ③ユニバーサルデザインフォントが使われている ③本文下にスペースがあり、用語の説明がある。	②B5判 ③ユニバーサルデザインフォントが使われている。 ③ユニバーサルデザインへの対応がされている。 ③固有名詞にはすべてルビが振ってある。	
イ 教科・種目別の観点	① 道徳的な課題を生徒が自分との関わりの中で、主体的に考え、自分の考え、感じ方を明確にすることができるよう、「考える道徳」につながる内容構成になっているか。	・本文下のスペースに、「つぶやき」として教材を読みながら感じたことをメモできる。 ・巻末に「心情円」、ホワイトボードの付録があり、自分や他の人の考えが可視化される。	・すべての教材に「導入」と道徳的価値を考えるための問いが設定されている。「導入」は、学習の内容に関する意識づけと見通しのために活用する。
	② 自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考えるために、多様な考え、感じ方と出あい交流する「議論する道徳」につながる内容構成になっているか。	・導入で問題を発見し、教材を読んだり、グループで話し合いをしたりする中で、道徳的価値を深く理解していく教材を設定している。	・「問題解決学習」に適した教材を数多く取り入れ、物事を多面的、多角的に考え、議論ができるようになっている。
	③ 発達の段階に応じて、道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れるための工夫や配慮がなされているか。	・「ACTION!」という体験的な学習の教材が各学年2つあり、実際に起こりうるシチュエーションについてロールプレイ形式で考えられるようになっている。	・「やってみよう」というコーナーが各学年1～2つ設けられており、ロールプレイや日常の体験を想起して話し合う活動が取り入れられている。

	発行者の略号	光村	日文
	書名	きみが いちばん ひかるとき	あすを生きる
ア 教科・種目に共通な観点	①編集の趣旨と工夫	・3年間の見通しを持った構成がされている。成長過程、学校生活、教材と教材の関連性など、さまざまな面から組み立てを考えている。 ・「きみが いちばん ひかるとき」という副題は、自尊感情を高め、「生命の尊さ」を意識させ、学習意欲を喚起し、教科書に愛着を培うようになっている。	道徳科の学びを通して、他者と共に社会を創造し、よりよい社会の担い手になるため、一人ひとりが自信をもってよりよく生きられることを目標として構成されている。
	(7) 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 「教育基本法（第1条、第2条）及び学校教育法（第49条・第30条2項）に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ① 生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮 ② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮 ③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	①各学年の巻頭に、「道徳で何を学ぶの?」「どうやって学ぶの?」「なぜ学ぶの?」について書かれており、学ぶ内容や方法、意味を確認した上で授業に臨むことができるようになっている。 ②教材末に「つなげよう」が設けられており、日常生活や学校行事、他教科などにつながるように配慮されている。 ③各学年の最終教材に、1年間の学びを振り返り、自分の中の変化やこれからの生き方を見つめる教材が位置付けられている。	①1学年の「プラットフォーム」において、アンガーマネジメントについて扱われている。 ③身近な人物から先人までの、悩みや葛藤など心の揺れやそれを乗り越える勇気や気高さなど、多様な生き方が扱われている。
	(4) 市町の方針との関連 ① 小田原市 ②箱根町 ③真鶴町 ④湯河原町	各市町の方針に沿っている。 ②1年巻末「箱根寄木細工」、2年「箱根駅伝に挑む」	各市町の方針に沿っている。 ①「小田原箱根エネルギーコンソーシアム」や二宮尊徳の報徳思想について扱われている。
	(ウ) 内容と構成 ○ 中学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ① 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮 ② 他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮 ○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ③ 言語能力の確実な育成 ④ 伝統や文化に関する教育の充実 ⑤ 体験活動の充実 ⑥ 学校段階間の円滑な接続 ⑦ 情報活用能力の育成 ⑧ 生徒の学習上の困難さに応じた工夫 ⑨ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	①1年間の学びを、例えば1年では、「自ら考える」「広い視野で考える」「共に学び合いながら考える」の3つの「シーズン」に区切り、段階を経て学習できるように構成されている。 ③ポートフォリオ式の振り返りシートがついており、1時間ごとの学んだことや気づきが記入できるようになっている。 ④巻末に日本全国の世界遺産や工芸など、文化や伝統を紹介するページがある。 ⑥小学校の道徳の定番教材が付録に掲載されていて、自分の考えの成長を自覚し、答えが1つではない道徳の学びを実感することができるようになっている。 ⑦スガシカオ、アンジェラアキなど、ポップス曲の歌詞から考える教材がある。 ⑦情報モラルにおいて、情報機器の危機的な側面だけでなく、それらをよりよく扱い活用することのよさについて取り上げている。 ⑧中学校以上の配当の常用漢字全てにふりがなを付している。 ⑨各教材の冒頭に、その教材が内容項目の4つの視点のうちどれに当てはまるかを色とアイコン、端的な言葉で示している。	①問題把握→自力解決→集団検討を採用し、主体的・対話的で深い学びになるよう配慮されている。 ②中学社会、中学数学、美術でも、道徳教育と関連する内容が幅広く掲載されている。 ③ノート下部に、授業での学びや取り組みに関する振り返り欄を設け、主体的に考えることを促している。 ③ペアトークやグループトーク、付箋やホワイトボードを活用した効果的な議論方法が工夫されている。 ⑥高校の新設科目「公共」への接続を意識したコラムが掲載されている。 ⑧中学校で学習する漢字全てにフリガナがついている。 ⑧各教材のはじめが偶数ページ（見開きの右側）で統一されており、見やすいレイアウトになっている。 ⑧すべての教材名の下部に、人物の顔写真や登場人物のイラストが掲載されている。 ⑨タイトル付近に「主題」が示されており、生徒がその教材で何を考えるべきかがわかりやすく、取り組みやすい。 ⑨各教材の冒頭に、その教材が内容項目の4つの視点のうちどれに当てはまるかを色とアイコン、端的な言葉で示している。
(I) 分量・装丁・表記等 ① 各内容の分量とその配分は適切であるか。 ② 体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。 ③ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、生徒が理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	②B5判 ③ユニバーサルデザインフォントが使われている。 ③カラーユニバーサルデザインへの配慮がなされている。色の区別だけに頼らず、文字の説明を加えてある。	②B5判 ③ユニバーサルデザインフォントが使われている。 ③カラーユニバーサルデザインへの配慮、文字の読みやすさへの配慮、図の読み取りやすさへの配慮がなされている。	
イ 教科・種目別の観点	① 道徳的な課題を生徒が自分との関わりの中で、主体的に考え、自分の考え方や、感じ方を明確にすることができるよう、「考える道徳」につながる内容構成になっているか。	・各学年に4か所「深めたいむ」があり、前の教材で学んだことを自分事として考えられるようになっている。	・発問がノートに印刷されていないため、生徒自身から出たテーマについて考えたり、教師が授業の方向を設定したりと、柔軟な使い方ができる。 ・発問はすべて「考えてみよう」と「自分に+1」の2問に絞られており、1つ目はねらいに迫るための問い、2つ目は学んだことを生かすための問いとなっている。
	② 自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考えるために、多様な考え方や、感じ方と出あい交流する「議論する道徳」につながる内容構成になっているか。	・教材の理解を深めるための発問の「考えよう」のほかに、「見方を変えて」として切り口を変えた発問を設定している。	・「学習を深めるヒント」欄に、「考えを深める視点」が設けられ、多面的・多角的に考えられるようになっている。
	③ 発達の段階に応じて、道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れるための工夫や配慮がなされているか。	・相手の立場となって自分の気持ちを伝える活動や、自分の気持ちをコントロールする方法（アンガーマネジメント）を学び、実際にロールプレイで体験できるページがある。	・「学習のすすめ方」で役割演技や議論の様子が写真で示されており、イメージしやすく工夫されている。

	発行者の略号	学研	廣あかつき
	書名	明日への扉	自分を見つめる（1年）自分を考える（2年）自分をのぼす（3年）
ア 教科・種目に共通な観点	①編集の趣旨と工夫	自ら学び、自ら考え、よりよく生きる力を育むために、現代的な課題が数多く盛り込まれた教材で、プラス思考と未来志向を備えた生徒の育成を目指している。	子どもたちが、自分の人生を自分らしく、自分で切り拓いていける力が育めるよう、「人間のよさ」を感じられる教材が精選されている。
	(7) 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 「教育基本法（第1条、第2条）及び学校教育法（第49条・第30条2項）に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ① 生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮 ② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮 ③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	①巻頭に「考えを深める4つのステップ」が明示されている。また、随所に特設ページが設けられ、工夫と配慮がある。 ①「クローズアップ」では、教材に関連した内容を地域や過去の実話に結び付けながら紹介している。 ①情報モラルの教材が各学年2教材ずつ用いられ、発達段階に合わせて考えることができるようになっている。 ③「遵法精神」「相互理解」「思いやり」など、様々な内容項目からいじめ防止につなげている。	①各学年の巻末に、いじめや情報機器との付き合い方など、現代的課題に関する記事を取り上げ、掲載している。 ③すべての教材の最後に先人の言葉が掲載されている。 ③道徳の内容項目に示された4つの視点からいじめについて考えることができるようになっている。
	(4) 市町の方針との関連 ① 小田原市 ②箱根町 ③真鶴町 ④湯河原町	各市町の方針に沿っている。 ③2年の「クローズアップ」において、真鶴町の魚つき保安林が紹介されている。（森と海のつながり）	各市町の方針に沿っている。
	(ウ) 内容と構成 ○ 中学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ① 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮 ② 他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮 ○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ③ 言語能力の確実な育成 ④ 伝統や文化に関する教育の充実 ⑤ 体験活動の充実 ⑥ 学校段階間の円滑な接続 ⑦ 情報活用能力の育成 ⑧ 生徒の学習上の困難さに応じた工夫 ⑨ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	①読みもの資料だけでなく、絵や写真、図やグラフなどのバラエティに富んだ素材で構成されている。 ②各教科等での道徳性の育成につながる教材が用意され、関連を考慮しながら年間計画が作成できるよう工夫されている。 ③巻末に、学期末に記入する振り返りシートが付属している。 ⑧中学校で習う漢字や固有名詞にはルビがある。 ⑧各教材の始めが偶数ページ（見開き右側）で統一されており、見やすいレイアウトになっている。 ⑨情報モラルや生命に関する教材には、タイトル付近にアイコンで記されている。 ⑨各教材の冒頭に、その教材が内容項目の4つの視点のうちどれに当てはまるかを色とマークで示している。	①「人間としての生き方」について考えを深めるために、道徳科で学ぶさまざまな道徳的価値との関わりで「いじめ」について考える。 ②教材ごとの各教科や他の教育活動との関わりが、本冊の巻末に示されている。 ③別冊ノートに毎時間の授業の記録や考えたことをある程度分量のある文章で記入できる欄がある。 ③ノートの巻末に「心のしおり」として、学期はじめと学期末に、目標や伸ばしていきたいこと、その振り返りを記入するページがある。 ④日本人として自覚をもって文化の継承・創造と社会の発展に貢献しようとする態度が養えるように編集されている。 ⑥哲学者の生き方や考え方を自分との関わりにおいて考えられる教材があり、公民との接続が考慮されている。 ⑧未習の漢字や、固有名詞にはフリガナが振ってある。 ⑨各教材の冒頭に、その教材が内容項目の4つの視点のうちどれに当てはまるかを色とマークで示している。
(イ) 分量・装丁・表記等 ① 各内容の分量とその配分は適切であるか。 ② 体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。 ③ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、生徒が理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	②A B判 ②ユニバーサルデザインフォントが使われている。 ②カラーユニバーサルデザインへの配慮がなされている。 ③写真や図版を大きく掲載している。	②A B判 ②カラーユニバーサルデザインへの配慮がなされている。 ③イラストの配置が工夫され、文章が読みやすくなっている。 ③1年生は本文の文字がやや大きくなっている。	
イ 教科・種目別の観点	① 道徳的な課題を生徒が自分との関わりの中で、主体的に考え、自分の考え方や感じ方を明確にすることができるよう、「考える道徳」につながる内容構成になっているか。	<ul style="list-style-type: none"> 教材の冒頭に主題名を示さないことで、特定の価値観を押し付けずに生徒自らが考えられるようになっている。 ユニット学習で視点や内容項目の異なる複数の教材を関連させ、広い視野で考えさせる授業が展開できるようになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 別冊ノートが付属しており、ノートは内容項目の解説と生徒の学びの記録で構成されている。それぞれの内容項目で学ぶべきことが明確に記されており、生徒が教材の理解を深めることができる。 教材で学んだ内容項目について、いっそう理解が深められるよう「thinking」が配置されている。
	② 自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考えるために、多様な考え方や感じ方と出あい交流する「議論する道徳」につながる内容構成になっているか。	<ul style="list-style-type: none"> 重点テーマは「命の教育」。さまざまな観点を通して「いのちの大切さ」について多面的・多角的に考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの教材に「考える・話し合う」コーナーが設けられている。「考えを広げる・深める」では、教材に関連した内容をどのように自分の生活に生かすことができるか考える発問がある。「学習の手がかり」では、その教材の理解を深めるための発問が設定されている。
	③ 発達の段階に応じて、道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れるための工夫や配慮がなされているか。	「深めよう」のページの内容が充実している。 →「やってみよう」として、登場人物の立場をロールプレイで体験する活動がある。	<ul style="list-style-type: none"> 役割演技の動作化、追体験など、道徳的行為に関する体験的な学習を通して、道徳的価値についてより深く考えられる教材を「体験的な学習を促す教材」として、積極的に掲載されている。

発行者の略号		日科
書名		生き方から学ぶ（1年）生き方を見つめる（2年）生き方を創造する（3年）
ア 教科・種目に共通な観点	①編集の趣旨と工夫	国境や文化を超えた「普遍的な心」によって、地域社会や国、そして世界に主体的にかかわる意識を生み、これからの未来を見据えて行動できる生徒の育成を目指す。
	(7) 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 「教育基本法（第1条、第2条）及び学校教育法（第49条・第30条2項）に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ① 生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮 ② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮 ③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	① 2年生では、性的マイノリティについての教材、3年では障がいのある人に対する合理的配慮について考える教材がある。 ①各学年の巻頭に「道徳科って何を学ぶの？」というページがあり、学ぶ意味を確認した上で授業に臨むことができるようになっている。 ①SNSとの付き合い方に加えて、SNSのメリットについてもふれている。
	(イ) 市町の方針との関連 ① 小田原市 ②箱根町 ③真鶴町 ④湯河原町	各市町の方針に沿っている。 ① 3年の「天地と共に」の教材で二宮尊徳が扱われている。
	(ウ) 内容と構成 ○ 中学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ① 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮 ② 他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮 ○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ③ 言語能力の確実な育成 ④ 伝統や文化に関する教育の充実 ⑤ 体験活動の充実 ⑥ 学校段階間の円滑な接続 ⑦ 情報活用能力の育成 ⑧ 生徒の学習上の困難さに応じた工夫 ⑨ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	①登場人物の悩みや葛藤を共有し、道徳的問題や判断の結果を自分自身のことと捉え、考え、話し合うことで道徳的諸価値への理解が深められる。 ②学習指導要領の内容項目順に教材が配置されているため、学校独自に順番を変えて学習計画を立てることができる。 ③年度末にそれぞれの内容項目で学んだことや授業の取り組みについて振り返るための振り返りシートが付属している。 ④歴史人物やスポーツ選手などの著名人の生き方や体験から学ぶ教材がある。 ⑤現場の教師たちが執筆したオリジナル教材が多く、生徒が興味関心をもてるように工夫されている。 ⑥ワーク方式で、思考と議論を年単位で積み重ねられるようになっている。例：「二つの足跡」（1年）「あなたが見ているもの」（2年）「あなたはこう思う」（3年）また、ストーリーに連続性を持たせているものもある。
(イ) 分量・装丁・表記等 ① 各内容の分量とその配分は適切であるか。 ② 体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。 ③ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、生徒が理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	② B5判 ③過去にどのような出会いをしてきたかで未来の選択が創られると考え、表紙の写真は上段に日本の伝統文化、下段に新しい技術が掲載されている。	
イ 教科・種目別の観点	① 道徳的な課題を生徒が自分との関わりの中で、主体的に考え、自分の考え、感じ方を明確にすることができるよう、「考える道徳」につながる内容構成になっているか。	・それぞれの教材の発問は2つずつで構成されている。1つ目の発問は、その物語や内容の理科を助けるためのもの、2つ目の発問は、教材から学んだことをどのように自分の生活にいかすことができるか考える発問になっている。 ・教材の文末が工夫されていて、生徒が自然に考え出すような仕掛けになっている。
	② 自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考えるために、多様な考え方、感じ方と出あい交流する「議論する道徳」につながる内容構成になっているか。	・文章で表現された物語教材以外に、絵や写真から情報を読み取ったり、過去の事例を題材に話し合ったりする教材がある。
	③ 発達の段階に応じて、道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れるための工夫や配慮がなされているか。	・ネット社会に関する教材など、現代社会について取り上げたものがあり、生徒が自身の体験を通して自分事として考えることができる。